

126 不動明王立像 ふ どう みょう おう りゅう ぞう



指 定 市有形文化財 平成20年 6 月13日
 所在地 春 日
 所有者 蓮 華 寺



墨書銘ぼくしょめいから本像は蓮華寺の護摩堂の本尊として制作されたことがわかる。
 貞和5年(1349)7月10日に、運慶うんけいの筋を引く幸勝こうしょう(康勝)流の仏師がこの銘文を記したようであるが、本人の名前は墨書銘ぼくしょめいからは確認できない。
 特徴的なのは、着衣の先端部を波形にあらわすなどいわゆる「唐様の仏像」とも呼べるような工夫がみられるところである。こうした特徴からも、本像の製作年代は貞和5年(1349)と判断される。
 勧進かんじんの趣意は、天長地久などとともに源朝臣長房みなもとのおんながふさなる人物の諸々の福德を祈願するためであった。長房とは佐久伴野庄の地頭であった伴野長房(出羽弥三郎?~1352)のことか。
 勧進の指揮を執ったのは弁海べんかいなる僧である。弁海については蓮華寺歴代住持の中に見当たらず不詳である。

像高：75cm 全高：約140cm (台座・光背含む) 最大全幅：約48cm
 品質：木造彫眼彩色。材はカツラとみられる針葉樹材を用いる。
 付属品：宝剣、絹索、台座、光背